

TAKE FREE

介護を応援する情報誌 [カイゴタイムズ]

介護 Times

【全国版】

2

Feb.2021

介護のこと新発見。
地域密着、
この街と共に。



02 「ミライ道場」現役生インタビュー

介護を経験しながら、夢を叶える！新しい奨学金制度「ミライ道場」

夢 城西国際大学 メディア学部 メディア情報学科 映像芸術コース1年 上原 彩寧 さん
いつか、高齢者へのインタビュー動画を発信できれば！



03 夢 中央大学 国際情報学部1年 宮城 ひゅうが さん

データサイエンス+介護経験で、介護ロボット開発も！



04 夢 千葉商科大学 サービス創造学部 サービス創造学科1年 知名 秀樹 さん

「時間を売る仕事」ではなく、「自分のためになる仕事」だと実感！



05 笑顔 株式会社MOF(モフ) 代表取締役 前田 利恵子 さん

**すべての人を笑顔にしたい！そのためだったら、
福祉業界のゴジラになって、常識、を踏み倒します！（笑）**



08 音楽 株式会社 Wellone's 代表取締役 宮地 太基 さん

介護と福祉の世界に音楽の力を



10 介護×不動産 座談会 vol.2 介護業界×不動産業界 計11名による座談会

— 豊島区から考える —
どうする？ 超高齢化社会における「命の管理」



14 対談 エステー株式会社 ビジネス開発事業部 事業部長 岡部 豊 氏

看護師・保健師 秦 佐起代 介護福祉士 藤井 寿和
**抗菌効果が約1カ月持続する Dr.CLEAN+ 除菌・ウイルス除去スプレー
— 開発への思い — エステー株式会社**



16 otomo (オトモ) 代表取締役 鈴木 貴達 さん

視覚障がい者の「行きたい」を叶える



19 次号予告

20 広告掲載申込書

21 編集メンバー紹介

介護 【全国版】
Times

TOWN
介護 TOKYO

ネットでも読めます！
最新号、バックナンバー



『介護の資格 最短net』で読むことができます。 **介護の資格 最短net**

<https://www.acpa-main.org/kaigotimes.html>





介護を経験しながら、夢を叶える！

新しい奨学金制度「ミライ道場」

「ミライ道場」は、経済的な理由で進学が困難な学生たちが、介護施設で働きながら、「自分の力で進学する」介護インターンシップ型自立支援プログラム。自身も新聞奨学生だった奥平幹也さん（ミライ道場代表）が創設し、学校や受け入れ先を開拓してきた。2020年には新たに15名の学生を受け入れ、これまでに40名以上の学生がこの進学支援を利用してきた。現在、介護施設で働いている学生3名に生の声を聞いてみた。

いつか、高齢者へのインタビュー動画を発信できたら！

夢

城西国際大学メディア学部メディア情報学科
映像芸術コース 1年・沖縄県立糸満高校出身

上原 彩寧^{あやね}さん



本誌「2月号」
表紙モデル

上原 彩寧さん



表紙を飾ってくれた長身の上原彩寧

さんは、高校時代はバスケットボール部で活躍したスポーツウーマン。体育大学の進学を考えていた時期もあるが、メディア関係の仕事に興味をもつようになった。

「メディア関係の仕事に進むなら、選択肢が広がる東京の大学に行きたいと思いました。でも、メディア関係というだけでは具体的ではないので、親からOKは出ませんでした。経済的にも負担が大きくて……。居酒屋系の奨学金制度もありましたが、親の立場になってみれば心配です。どうしたらいいのだろうと迷っていたときに、『ミライ道場』を知りました」。

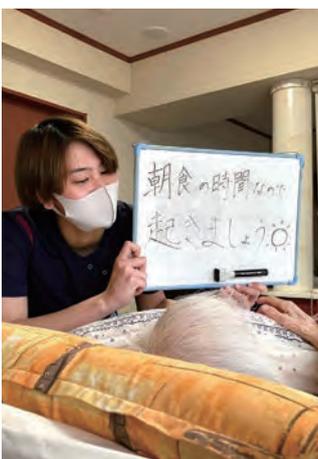
学校に来て説明してくれたのは奥平代表。聞けば、介護の仕事しながら、自分の力で進学するのだという。「私はもともと高齢者が好きだし、その人の人生の最後の生活を手助けしてあげられる仕事は「尊い」と思えました。何より、親が安心してくれました。メディア関係の仕事に進めなかったとき、トレーナーや介護関係の「第二の道」の選択肢もありますから」。

親元を離れ、経験のない介護の仕事をするに不安がないわけはなかったが、

親の前では強がって「大丈夫！」と言って上京した上原さん。扶養範囲内の収入にするために、夜勤（16時半～9時）を月5～7回に抑えている。それでも生活費以外に月3万円の学費返済をしている。

介護現場で新しいことを覚えるのは苦にならないが、辛いのは利用者の方とお別れだった。「昨日まで元気だった人が急に亡くなるとショックで……。人間はいつ何があるかわからないと実感すると、ホームシックになってしまいました」。でも、「ありがとうね」と感謝されたり、「沖縄、行ったことがあるよ」とかお話をしてくださると嬉しいです。

将来の夢はメディア関係。映像を撮る、演出する、演じる……。卒業後に進む道はまだ模索しているが、「高齢者へのインタビュー動画を発信できたらいいですね」と、上原さんの夢は膨らむ。





データサイエンス+介護経験で、介護ロボット開発も！

中央大学国際情報学部1年・沖縄県興南高校出身

宮城ひゆうがさん

東京の私立大学に進学することは決めていたが、経済的事情から奨学金を利用するのは大前提だった。高2のとき、進学イベントに参加して奥平代表の講演を聞き、『ミライ道場』を知った。

「バイト経験もないのに、いきなり介護なんて不安がありました。高齢者に関わったこともないし、介護なんて知らない世界。でも、母は何でも経験

したほうがいいという教育方針だったので、背中を押してくれました」。

一般の奨学金制度は入学してから奨学金が支給されるが、実際には合格直後に入学金などのまとまったお金が必要になる。「『ミライ道場』では入学前に必要なお金を貸してくれるのが大きなメリットで、決め手となりました」。



宮城ひゆうがさん



夜勤（22時～7時）を週2回、週末に日勤1回。学費は奨学金でまかなくていい、バイト代は家賃を含めた生活費に充てているそうだ。「生活のスタイルによってシフトが組めるので、学業と両立できるのが有難いです。施設内の時間の流れはゆったりしているの、急かされることもありません。20代の先輩もいて、人間関係にも恵まれています」。

宮城さんは、夜勤で排泄や起床の介助などをしているが、もちろん高齢者をお世話した経験はない。「高齢者の方に対する言葉遣いや振る舞いをどうしたらいいか不安でしたが、接してみるようになって、高齢者の方が好む話題もわかるようになりました。排泄なども人間の自然な現象として、当たり前のこととして受け止めています」。

ソフトな印象の宮城さんは、利用者から「やさしい」と言われることが多いそうだ。「夜勤のときに、寝る前には必ず声をかけてね」と僕を頼ってくれる人もいます。自分が明るいとい入居者も明るくなるので、明るく感じられるように振舞っています」。

宮城さんが学んでいる「データサイエンス」によると、世の中のすべての事象は数的な視点で分析できる。例えば、介護ロボットや介護ソフトウェアを開発するときに、「高齢者が転倒しないようにケアするにはどうするか」は、転倒の数的分析が根拠になる。宮城さんの介護経験は、きつと将来の仕事に生かされるだろう。





「時間を売る仕事」ではなく、「自分のためになる仕事」だと実感！

千葉商科大学サービス創造学部サービス創造学科1年
沖縄県立糸満高校出身

知名 秀樹 さん

「『ミライ道場』の奨学金制度を検討しているとき、祖父が倒れて介護が必要になったタイミングだったので、自分も介護を学べば、家族の力になれるかもしれないと思いました」という知名さん。介護の資格にも積極的にチャレンジしている。「コミュニケーション力には自信があったので、高齢者の方ともすぐに打ち解けることができました」。

「いつも元気だね」「声が大きくて明るいね」と言われることが多いそうだ。毎日、仕事を始める前のルーティンがあるという。「元気に明るくしてあげよう！」「ケガをさせないようにしよう」と、今日の目標“をつぶやく。週5日、18時から22時のナイトケアに入っている知名さんは、17時10分に授業が終わると施設に直行。仕事が終



知名 秀樹 さん



わってから課題をする毎日だ。「時給がいいので、学費や生活費をまかなえています」。

メリットは収入面だけではない。周りのスタッフには、新卒の先輩から親世代のリーダーと幅広い年齢層。利用者のなかには、理不尽に怒られ対応に困る人もいれば、勉強をさせてもらえるような元経営者もいる。戦争体験を直接聞けるのも貴重な機会だ。

「普通のバイトだったら接点がないような高齢者と交流ができるのはスゴイことだと思います。荷物の仕分けのバイトとかしたことがあります。普通のバイトは時間を切り売りするだけ。介護現場で人に関われば関わるほど、コミュニケーションの幅も広がり、将来に生かされます」。

知名さんが学ぶ「サービス創造学部」は日本唯一の学部で、夢は経営者にな

ること。「例えば、介護の仕事に関連付けた旅行会社とか。お寺めぐりをしたいという旅行好きな人も多いので、高齢者や介護を必要とする人たちの新しいサービスを創造したいです」。

介護現場で働いていて感じるのは、若い人の力が必要だということ。「介護の仕事は大変だというイメージがもたれていますが、入りやすい魅力づくりも必要だし、SNSが主流の時代、自分たちが感じているメリットも発信していけたらいいと思います」。



ライター 谷口 のりこ

笑顔

すべての人を笑顔にしたい！
そのためだったら、福祉業界のゴジラになって
“常識”を踏み倒します！（笑）



前田 利恵子さん

株式会社M O F（モフ） 代表取締役
家族／医療専門臨床心理カウンセラー

前田 利恵子さん

医療と家族の臨床心理カウンセラーの前田利恵子さんが、株式会社M O Fを設立したのは2013年。患者だけでなく、家族や夫婦も含めた心理ケアや、医療フィールドの事業やイベントを主催している。会社のキーワードは「笑顔」。すべての人を笑顔にするために会社を立ち上げたという前田さんだが、ここに至るまでの経歴が個性的だ。「笑顔にしたい」の裏には、きつと「笑顔にならない人」をたくさん見てきた経験があったはずだ。

1型糖尿病患者でも、自由を求めて留学へ

パワフルで明るく、健康そのものに見える前田さんだが、実は11歳のときに1型糖尿病を発症して、いまでもインスリン注射をしながら生活している。当時は今のようになんとも普及していないため情報共有もできず、患者とその家族は不安と手探りのなかで病气と生きていた。今だに原因がわかっていない1型糖尿病は20年前程前までは薬と食事の制限があり「お肉をたくさん食べる」「お菓子はこの量」と前田さんも管理されていた。

「自由を求め、親から自立したくてたまらず、一人カナダの短大に留学しました」。

幸いにも、発病からの主治医の先生は理解があり、親にも「大丈夫！」と言って留学の背中を押してくれた。振り返れば、それは間違いない家族サポートであった。

こうしてカナダで自由を満喫しながら2年間の留学を終え、帰国後はホテル勤務に。心理学の基礎はホテルマン時代に学んだ。その後、英語のブラッシュアップのために再度ワーキングホリデーでカナダへ戻り、最後は移民権を取得する。

カナダでバリアフリーを実感「心理ケア」に出会う

最終的に30歳まで滞在したカナダは、バリアフリーの進んだ国で、日本の遅れに驚いた。「カナダでは病気であろうと車椅子であろうと、みんな普通に仕事をしているんです。誰も隠していないし、特別視もされず生活が保障されている」。スロープや車椅子用のトイレがないと、一定以上の規模の建物は建築許可が

下りない。「障害者が当たり前前に生活の中に溶け込んでいました。生きる権利。私もどこでも『私、インスリンを打っているから、たまにジュースとか飲みます』と堂々と伝え、理解を得ていました」。

帰国後、外資系企業で働いたが、日本企業のタテ社会との板挟みがストレスだったのか、乳腺腫瘍ができ悪性の疑いもたれた。1型糖尿病は傷の治りが遅いから手術は一回だけと言われた。もし、がん細胞があれば左胸全摘。表面は「大丈夫」と笑いながら不安のどん底に陥った。

思い出したのは、カナダで身のお世話をしていた80代のおばあちゃん。脳梗塞リハビリの補助をしていたが、常に病院には心理ケアの専門家と牧師がいた。

「日本の病院では、心理ケアをしてくれる人はいない？」だったら、私かなろう」と思いました。そこから前田さんは仕事をしながら、復学し心理学を学ぶ。



アメリカで臨床経験を積み、臨床心理カウンセラーに

「私、向いてる！」。心理学の勉強を深めながら、臨床心理カウンセラーという専門職が視野に入ってきた。「命に係わる病気には心理ケアはなされるけど、一生付き合っていくような1型糖尿病やアトピーなどにはケアが手薄になります。でも、そういう長期疾病の患者さんや家族にこそ、併走していく人が必要です」。

子供が病気の親は、子供が心配なあまり過保護になる。「みんなに見られて、いじめられないかしら？」と思う親は、「みんなが見るから嫌だ」という意識を子供に植え付けてしまう。子供の病気に対して、「私が健康に生んであげられなくてゴメンね」と罪の意識を持たせ、謝られる子供は「自分は不完全なのだ」と思ってしまう。治療を放棄する子すら出てくる。自分の存在価値を低く見るようになるのだ。例えばそんな親子関係には、「家族療法」という第三者の介入による伴走は有効だと思った。

これまでにも「家族療法」がないわけではなかったが、患者側に一人、家族側に二人の二人態勢が基本だ。だが、前田さんは一人で家族全員と話すグループカウンセリングを開拓。そして、それがカタチになってきたとき、「仕事にしようと思えます」と主治医に報告。すると、『さかえ』（日本糖尿病協会）の

冊子に連載をしてみない？」と勧められ、家族療法の立場からコミュニケーションについて綴った。すると、医療者側からの反響が大きく、研究会での講演依頼が増えていった。「ニーズはあるんだ！」と実感した前田さんは、ニューヨークの家族療法の研究所に行き、100時間以上の臨床経験を積んだ。きちんと仕事ができるステイタスが確立してからは、病院の先生方が紹介してくださる方をカウンセリングをするようになった。

健常者と障害者は、混ぜないとダメなんです！

「1型糖尿病で不登校になる子のケアをしているうちに、普通の不登校の子供の相談も増えていきました。そして沢山の不登校の子と関わっているうちに、発達障害の子が多いのに気が付き、勉強を始めました。ほら、私の人生、全部“今”に繋がっているでしょう？（笑）」



発達障害の子供の親は、発達障害の事実を認められないことも多い。そういう人たちにソフトランディングさせてあげる伴走をする。「こういうときには、お子さんはこんなふうに感じているんですよ」と通訳。子供にも親の通訳をする。「発達障害って進化の過程だと思っんです。視覚・聴覚が発達する過程で、時に過剰に反応したりする時期、小学校で診断された後、成長過程での変化もあります。正しい支援が重要です。さらに今の学校制度だと、健常者と障害者は大人になるまで一緒にしない。分断されてしまう。だから、社会へ出てから、一緒に働く人が障害者だと、人はどうしていいのかわからない。そうなるとう、健常者の都合で「一緒に働けない」となる。健常者と障害者は常に混ぜなくちゃダメです！「分断」はダメ。グレーゾーンの子供をサポートする場所が少なかったことから、前田さんは自ら、誰でも来られる「Kアカデミー」も臨床心理士と創設した。（現在休校中）

「介護施設でも、スタッフがパステルカラーのポロシャツ、チノパンなんかをお揃いで着ているのも、利用者とスタッフの「分断」だと思います。ステレオタイプの制服ではなく、派手な格好や、私の様に各自個性を出した服を着ていてもいいと思うのです。そのほうが楽しいし、私が高齢者だったら、スタッフがみんな同じ制服だと区別がつかなくて、誰にも声かけられないかも……。混ぜましょー（笑）」

千代田区の『モフカ』は、誰が来てもいい『居場所』

障害者や病気を抱える本人や家族、不登校の子供と家族、幅広い心理カウンセリングを行っている前田さんのもとに、「障害者誰でも来られる相談事業」の話があった。それが、今運営中の千代田区の「障害者よろず相談 MOFCA(モフカ)」だ。誰もやる人がいないなら・・・やりたい。「じゃあ、うちでやります！」と前田さんの会社は手を上げ、千代田区から委託を受けた。子供から高齢者までの障害者の個別相談に応じ、必要に応じて行政、教育、司法、福祉事務所などの専門機関と連携をとって支援する。「千代田区在住、在勤者であれば障害の有無、手帳の有無にかかわらず、誰が来てもいい場所です。とくに居場所と相談。またケアが手薄になる中高生の『居場所になれば』と門戸は広い。音楽イベントなども開催して、引きこもりの人が家から出てくることも。「その人の次のステップまでの隙間を埋めたいんです。隙間大切。」と前田さん。「モフカ」は東西線竹橋駅直結のビルの中にあり、両隣はカフェ。相談所でありながら、隔離された静かな場所ではなく、人通りの多い場所であることが逆に入りやすい。入り口では前田さんの大好きな大きなテディベアが温かく迎え、癒し空間を感じさせる。「モフカ」の意味は、もふもふ、フカフカとか。(障害のある人、発達障害、不登校、引きこもり、心の病を抱えた本人でも家族でも、「モフカ」は本当の家族のように受け入れている。

モフカについて



フリースペース

相談員と話したり、思い思いに自由に過ごせるみんなの「居場所」に。



モトラス

両隣はカフェだが、「モフカ」に一步入れば、テディベアがやさしく迎えてくれる。



カームルーム

音や光を遮る造作で、興奮を鎮めたり、落ち着いて過ごせる人気のスペース。



ライター 谷口のりこ

どんな人の相談でも、おおらかに受け入れてくれる前田さんの包容力と新しい事業に向けてのエネルギー。支援の手を広げたいフィールドが、前田さんの目の前には次々現れているようだ。

モフカ 千代田区障害者よろず相談MOFCA ☎ 03-6269-9755

<https://mofca.net/>



住所：東京都千代田区
一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル1F



対応時間：(月～金) 午前9時～午後7時、(土) 午前10時～午後5時
休 所 日：日・祝祭日 ※電話対応は24時間受付

音楽

介護と福祉の世界に 音楽の力を

株式会社 Wellone's
／代表取締役
宮地 太基 さん



放課後デイサービスにて 宮地 太基 さん(右)

お話を伺ったのは宮地太基さん(40歳)。宮地さんは株式会社Wellone's(東京都新宿区)の代表取締役として、音楽療法サービスの提供、児童発達支援や重度障がいのある児童を対象とした放課後等デイサービスを展開。そのきっかけとなったのは、偶然目の当たりにした「音楽の力」だった。

音楽療法との出会い

元々は出身地の大阪で営業職に就いていた宮地さん。東京に異動となった際に偶然再会したのは、音楽療法士として活動する学生時代の仲間だったという。興味を持ち、現場での音楽療法セッションを見学することに。

「たった1時間程度でしたが、ビフォー・アフターがすごくて！皆さんの表情がどんどん生き生きしていくんです」と当時の感動を語る。実は、宮地さんはロックバンド X JAPAN のドラマー YOSHIEKI に憧れ、20代半ばまでドラマーとして活躍。「音楽」が与える影響力を、人一倍敏感に感じ取られたのではないだろうか。



ドラムを叩く宮地さん(2017年頃)

職業としての音楽療法士確立を目指して

その後、音楽療法に関心を持ち「訪問型音楽療法サービス」に特化した事業を始めるが、課題となったのはその認知度、療法士の活動の場であったという。当時は音楽療法といっても伝わらず、「ヒーリングですか?」と聞かれることもしばしば。そこで、もつと音楽療法士という職業を確立させようと「サービスの提供」「学ぶ場」「働ける場」を軸とした事業の展開に至ったそうだ。

放課後等デイサービスの開所へ

徐々に実績はできるも「他にも活躍の場があるのでは」と思考していた中、あるお母さんと出会うことに。そこで



宮地 太基 さん



放課後等デイサービス

知ったのは、重度の障がいがある子どもが通える場所が少ない、という現実。特に新宿区においてはゼロの状態で、受け皿となる場所作りを相談されたそう。

「責任の重さなどリスクも考えましたが、ないものを作る」ということがモチベーションとなり、使命感を持つようになりました」と振り返る。また、同郷の友人が障がい福祉サービスを先行して展開していたこともあり、アドバイスやノウハウを受け、また、今まで培ってきた音楽療法も取り入れ、放課後等デイサービスの開所に至ったそう。

音楽を通じた課題解決を目指して

「老人ホームに入られる方の多くは、ご家族の希望なんですよね。比較的自立している方であっても、周りとのコミュニケーションがとれず引きこもりがちになってしまふ。でも、音がすると興味を持たれる方が多いんです。興味を持ち少しずつ部屋からでてくる。そして参加につながり、いつの間にか話が弾む。療法を楽しんで、友達ができ、居場所ができる。これが音楽療法なんです」と魅力を語る宮地さん。

また、障がい領域の課題解決にも意欲を見せる。「サービスを受けるため、色々なところに行かなければいけないんです。主治医はいてもリハビリなら別の先生、シヨートステイなら別の場所、といったように。ご両親も大変じゃないですか！なので、医療や介護はもちろん、遊びといったサポートも含めた医療型総合福祉施設を作りたい」と、力強く今後の展望を語ってくれた。

「大切にしているのは正直であること」という宮地さん。その正直さが



ライター 藤川

悠子



音楽療法士の掛け声に合わせて身体活動



音楽療法センター長の武知治樹さん

人との縁をつなぎ、また、事業の展開につながっているのではと感じさせられた。



株式会社 Wellone's ご紹介 <https://wellones.co.jp/>



訪問音楽療法サービス

Leaf音楽療法センター

<https://leaf-mt-center.com/>



音楽を通して人生を豊かにする訪問型サービスを高齢者施設を中心に提供。音楽療法を学びたい方や、音楽キャリアをあきらめかけた方々のセカンドキャリア支援にも力を注ぐ。

障がい福祉サービス/ 障がい福祉施設

NO SIDE!

<https://wellones.co.jp/noside/>



医療的ケアを含む重度障がいのある児童を対象とした児童発達支援、放課後等デイサービスを新宿区神楽坂にて2事業所展開。

放課後等デイサービス

放課後等デイサービス

Leaf音楽療法センター

<http://www.houkago-mt.com/>



音楽の街である静岡県浜松市に開設された、知的・発達障がい児を対象とした放課後等デイ。



—豊島区から考える— どうする？ 超高齢化社会における 「命の管理」

超高齢化社会において深刻化する「孤独死」。

加えて、近年では住民の認知症等を起因とした近隣トラブルや、賃貸への高齢者入居拒否も大きな問題となり、不動産業者は日々「住宅の管理」のみならず本来は業務外である入居者の「命の管理」の対応に追われている。

現状を打破するには介護業界と不動産業界、ふたつの業界がうまく連携していく必要があるのではないか。

先述した課題に加えて「空き家率23区内1位」などの複数の重大な懸念事項がクロスする街が、東京都豊島区。課題が渋滞しているからこそ、豊島区で打開策が見出せれば全国のモデルケースになり得るのではないかな。

そんな思いから、「介護・不動産」の連携について意見を交わす座談会を豊島区にて開催した。第二回目となる今回のファシリテーターは、独立系の賃貸不動産管理会社株式会社ハウスメイトマネジメントで長年現場の仕事を経験してきた伊部尚子さん、様々な企業等で家族介護の相談を受けているアモールファティの羽吹さゆりさん。豊島区を中心に介護・不動産それぞれの業界の従事者をコーディネートいただき、大所帯での意見交換の実現に至った。

高齢者の居住問題の現在

伊部 前回の座談会でも話題に挙がったとおり、現在、不動産業界は高齢者の居住に関するさまざまな課題に困窮しています。たとえば、入居者様がお年を召していくことで生じるお怪我や認知症、ご病気、そして孤独死……。

わたしたちの本来の業務は、建物および入居者様の契約の管理なのですが、いつの間にか「命の管理」も請け負っている状態になっていて。さらにはこれらの課題に頭を抱える大家さんと、「なぜ高齢者を受け入れてくれないのか」というお客様からのご意見の板挟みにもなっているのが現状です。

ご高齢の入居者様の中でも、われわれが特に課題視しているのが「介護・支援が必要にもかかわらず介護認定を取得できていない方」。たとえ入居当初は健康でも、その後不調になってしまふことは誰にだってあり得ることですよ。介護認定を取得していればケアマネさんたちが定期的に様子を見てくれるので心配は軽減されます。けれども、不調がはじまってから認定に至るまでの段階は誰も見ていません。ほんとうは介護・支援が必要なのに誰にも気付かれず、でも家賃だけは年金で引き落としされていて……いつの間にか孤独

対談参加者

(敬称略)

〈介護業サイド〉



株式会社ツクイ
田中 洋子
ツクイ・サンフォレスト東池袋
ホーム長 兼 訪問介護管理者



セントケア東京株式会社
渡辺 亮太
セントケア巡回ステーション豊島
専任係長 / 介護福祉士



介護業サイド
コーディネーター担当
有限会社 羽吹デザイン事務所
羽吹 さゆり
介護事業部
アモールファティ 代表



SOMPOケア株式会社
松田 司都子
在宅サービス SOMPOケア大塚
管理者



セントケア東京株式会社
山崎 智美
セントケア豊島
管理者・サービス提供責任者



不動産業サイド
コーディネーター担当
株式会社ハウスメイトマネジメント
伊部 尚子
ソリューション事業部
課長



永幸不動産株式会社
代表取締役
森下 智樹
公益社団法人 東京都宅地建物取引業協会
豊島区支部 組織委員長



公益社団法人
全国宅地建物取引業協会連合会
岡崎 卓也



しろくまホーム株式会社
代表取締役
荒井 法雄
公益社団法人 東京都宅地建物取引業協会
豊島区支部青年部会 会長



株式会社ヴェセル東
専務取締役
池下 正崇
公益社団法人 東京都宅地建物取引業協会
豊島区支部 青年部会 副会長



公益社団法人
全国宅地建物取引業協会連合会
斎藤 佑樹

〈不動産業サイド〉

死されていたり入院していたりということも珍しくありません。

こういったケースに対策を講じられたら、大家さんももっと高齢者の方たちを受け入れやすくなるのではないのでしょうか。ぜひ意見交換をいたく、このような場を設けました。みなさんの周囲でも、このような問題は生じているのでしょうか？

荒井 弊社で管理している物件でも、今年1年でおよそ300人中5人の孤独死がありました。お元気に見受けられたのですが、突然死でした。孤独死だけでなく、認知症等を起因にした近隣トラブルも時々起こっています。

松田 あるマンションでは80歳の方が独居で越してくるようになった際に、理事会で「反対しよう」という動きがあったと聞きました。分譲だったのでそのまま入居されたのですが、入居当初はお元気でも、やはり、次第に様子が変わってしまい……。管理人さんが気づいて地域包括への相談を促したので、介護認定の取得まで進められたそうですが、理事会にも心構えが必要なのだと痛感しました。

仕事で携わっている現場でも、「3階に住んでいるから階段が降りられず、



けれども1階の転居先が決まらなくて……どうしようもなく引きこもりになっている」というケースをお見受けしています。

「安心感」をお金で買える人、買えない人

羽吹 高齢者が安心して暮らせる住宅といえば、まずサービス付き高齢者向け住宅（以下・サ高住）が挙げられますよね。株式会社ツクイさんではサ高住の運営受託をされていますが、田中さん、サ高住でのお話をお聞かせいただけますか？

田中 うちのサ高住には60歳以上から入居ができるので、お客様の中には介護申請しても自立していて支援がつかないという方もいます。家賃、管理費、そしてサービス費を不動産にお支払いいただくのですが、では、なぜわざわざお金を払ってサ高住に住むのかというと、やはり「安心感」があることが大きいのではないのでしょうか。24時間、



介護の資格を持ったスタッフが常駐しており、必要あれば夜間でも対応できますし、お声がけ、排泄など、ほかの介護保険で降りないことは自費になりますが、孤独死のようなトラブルとは無縁です。ただし、やはり費用がかさむ点や、身元引受人に関する審査が厳しい点等が入居のハードルを上げているようです。

伊部 なるほど。それなりに収入がないと入れないんですね。

羽吹 そうですね。高齢者が集まる住宅として安心安全である一方で、経済的余裕がなければ入居できないことがサ高住の大きなデメリットといえます。

池下 不動産業界の観点から考察すると、お金がある方や身元引受人が近くにいる方については住む場所の確保ができていくように思えます。サ高住に入ったり、分譲マンションを買ったり。たとえ身元引受人がいなくてもお金さえあればURに入れることもあります。けれども、現状のままですと、一般のオーナーさんが所有している物件に関しては、高齢者の入居を「リスク」として捉えざるを得ません。オーナーのリスク管理はどうして必要なもので……。



不動産↓介護の橋渡しをどうするか

羽吹 冒頭で伊部さんからもお話があったように、「本来であれば介護が必要なのに介護認定を受けていない方」がたくさんいらつしやるのがまず大きな課題ですよ。そして、その方たちを把握する術が介護・不動産の双方にないことも。

森下 はい。われわれは不動産の賃貸管理会社というセクターに位置付けられるのですが、マンション管理業の方たちのように建物に常駐しているわけではありません。その立場である不動産賃貸管理業者が、どこまで入居者さんの人生に介入して良いのが難しいところです。プライベートの問題にも触れかねないので、不動産から介護への橋渡しの過程については慎重に考えなければいけません。

羽吹 そうですよ……。なかには介護保険を使わずに自費で受けられるサービスを行っている介護事業所さんもあるのですが、たとえば、それを介護と高齢の入居者さんをつなぐひとつのきっかけにできないでしょうか。松田さん、自費のサービスではどのようなことをされていますか？

松田 自費のサービスは、介護認定の取得まで至らない60代の方やひとり暮らしをされている方が、週一程度、掃除などご利用されることが多いです。元気なうちから自費で介護事業所と関わっていただけると、介護がほんとうに必要な際も早く判明します。



伊部 介護認定を取る前でも受けられるサービスがあるんですか！はじめて知りました。そのような自費のサービスって、大家さんが費用を払って、入居者様のお部屋に入っていたいただくこともできるのでしょうか？

松田 そうですね。時と場合にもよりますが、基本的にはできません。

周知活動に注力

松田 よく管理人さんに「どこに相談すればいいかわからない」といわれるのですが、掲示板などに相談の紙を貼っていただけるといいかもしれませんね。「どこに相談すればいいかわからない」方たちと「介護が必要なのに介護認定を取得していない」方たちの多くが一致しているような気がするのです。また、誰かから提案されると「わたしはまだ大丈夫」と拒否してしまうような方にも、チラシや看板でならそつと教えてあげられます。

渡辺 地域包括の高齢者総合相談センターの存在もチラシなどで周知できるといいですね。ご本人だけでなく地域の方にも知っていただければ、周囲からの通報や相談、ゆくゆくは介護認定の取得までに繋がるのではないのでしょうか。

羽吹 あとは、ご入居のお申し込み契約書に地域包括センターの地図や電話番号など基本情報を記載していただくのも良さそうですね。地域包括センターは介護に限らない暮らしのこと、なんでも相談していいところなので。

— 介護経営サポートシステム —

SuisuiRemon

実際に現場で働くスタッフの意見を取り入れながら、常に「使いやすさ」を追求して改良し続けています。

各種介護保険サービス、障害者総合支援、自費サービスに対応!

全国5,500事業所様で利用中!
全国でのユーザーも急増
介護のセントケアグループ運営の抜群の安心感

SuisuiRemon導入 6つのメリット

売上・入力・債権の明細を一元管理	返戻でお困りの方は効率的な入金管理で回収率アップ	複数事務所の一括管理
簡単便利なスケジュール作成&多彩な入居一時金、前受金管理	介護企業としてのノウハウを活かした介護関連帳票	簡単・便利な保険外サービスの登録・管理

経営・運用資金改善、業務効率化、経費削減にも貢献します!

● 早期資金化 ● 他社記録連携 ● 業務効率化の口座振替サービス

安心のサポート **電話** **FAX・E-mail** **リモートサポート**

バージョンアップも自動更新

アセスメント特化型システム

看護のアイちゃん

訪問看護アセスメント・業務支援システム

メリット1 アセスメントの標準化を支援! 放送大学大学院 山内豊明教授監修「新アセスメント手法」完全搭載

メリット2 看護の質を確保!

メリット3 帳票運動により業務負担を軽減!

メリット4 お客様によるバージョンアップは不要!

全国約540ヶ所の在宅介護を運営するセントケアグループの運営書式集ツールコンフォーム・パッケージ

1. リスクヘッジ
コンプライアンスの整備から制度改正に迅速に対応することができます。

3. 本部機能の強化
本部主導での統一書式の整備や現場からの質問等に対して迅速な対応を可能にします。

法定書式集
運用マニュアル
研修内容

2. 管理コストの抑制・削減
制度対応や研修プログラムの作成等、見えにくい管理コスト(人員)の抑制を可能にします。

4. サービスの質の担保
新規スタッフのOJTツールおよび毎月の研修ツールにて研修体制を構築できます。

介護のセントケアグループ セントワークス株式会社

《 TEL03-5542-8097 》

同様に、介護認定取得後の介護と不動産の連携も大切だと思います。ケアマネさんの方でも「大家さんが誰なのか」をちゃんと認識しておきたいですね。契約する際、基本情報の中に大家さんの連絡先等も記載しておいた方がいいかと思います。



編集長 藤井 寿和

ライター satomi



抗菌効果が約1カ月持続する ドクタークリーン除菌・ウイルス除去スプレー

開発への思い

エステー株式会社



エステー株式会社 ビジネス開発事業部 事業部長
岡部 豊氏

× 対談



看護師・保健師（本誌ライター）
秦 佐起代



介護福祉士（本誌編集長）
藤井 寿和

介護現場では、新型コロナウイルス感染予防のために頻回な消毒作業が必要となり、「施設スタッフの負担が大きすぎる」という悲痛な声が上がっています。

「感染対策における安全な環境づくりに貢献して、現場のスタッフのストレスを軽減したい。そして利用者の方に安心して頂きたい」、企業として役に立てることがないか―その思いから開発されたのがエステーの「ドクタークリーン除菌・ウイルス除去スプレー」。エステー株式会社のビジネス開発事業部・事業部長の岡部豊氏と本誌編集長藤井寿和、保健師の秦佐起代の三者で対談を行いました。



コロナ禍において社会の役に立つことを考えた商品開発



岡部 エステーは、「空気をかえよう」をスローガンに消臭剤などの商品を販売している企業ですが、コロナ禍の中、会社の強みを活かして、感染予防対策に取り組み現場のみならずまのお役に立てないかと、ドクタークリーンという業務用除菌剤を開発しました。この商品は通常のアルコールと違って、除菌・ウイルス除去効果が約1カ月持続します。

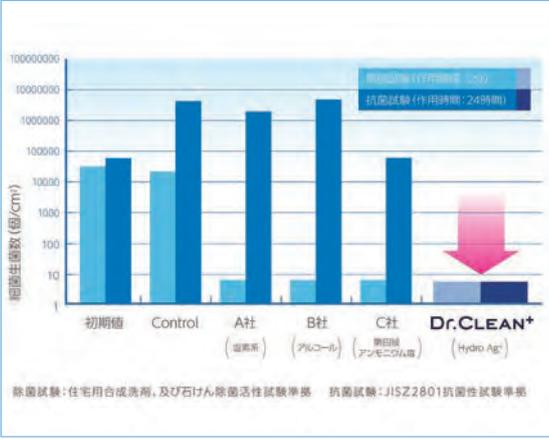
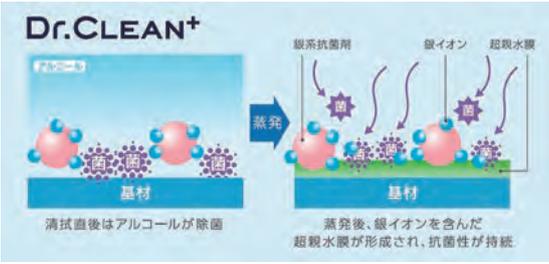
藤井 約1カ月も持続するんですね。アルコールとの違いは何ですか？

岡部 アルコールは使った瞬間は除菌できるのですが、すぐに蒸発するので除菌効果が長続きしません。除菌した

次の瞬間にウイルスが付着したら再汚染されてしまうのです。ドクタークリーンは富士フィルムが開発した「Hydro Ag+」という技術で、アルコールで除菌した後に、銀イオンを表面に薄くコーティングすることで抗菌効果が持続する仕組みになっています。

藤井 なるほど、除菌した後にコーティングするんですね。

岡部 さらに、繰り返し使用することで膜が塗り重ねられ、抗菌力の高いコート膜が形成されます。1日1回の除菌作業を行うことで、より除菌効果を高めていくことができます。



介護現場の負担をいかに軽減できるか

岡部 ドクタークリーンを導入して頂いた某ホテルでは、何度も行っていた手すりやドアノブ、トイレの便座などの除菌作業が1日に1回になり、スタッフの負担が減り、その分接客に力を入れられたとご好評いただいています。

藤井 素晴らしいことですね。介護現場でも、感染対策のために業務が増えてもスタッフが増員になるわけではありません。除菌作業に時間と労力を要したら、本来行われるべきケアが十分にできなくなる可能性があります。作業が1日1回で良くなるのは本当に有難いことです。

秦 感染経路は物を介するものもありません。スタッフとしては、自分が触れた体温計や手すりなどに菌やウイルスが付いていて、万が一利用者さんを感染させてしまったら…と不安です。ドクタークリーンで物を除菌すれば、安心して利用者さんにお渡しできますね。

藤井 ドクタークリーンはどのように使うのですか？

岡部 布などにスプレーを吹き付けて、除菌したい物の表面に液を塗り広げるように拭いてください。ドクタークリーンは希釈する必要がなくそのままお使いいただけます。

秦 現場では消毒液の希釈作業も一手間かかる仕事です。希釈濃度を間違えると効果がなくなりますから、それも心配です。ドクタークリーンは希釈せずにそのまま使えるので、安心・便利ですね！

**除菌済であることをお知らせする
思いやりの視点**

岡部 ただ1日1回の除菌だと、利用者にはスタッフが除菌する姿が見えなくな

**エスター Dr.CLEAN+
除菌・ウィルス除去スプレー**

商品詳細は
下記ブランドサイトを
ご参照ください



<https://drclean.st-c.co.jp/>

ライター 秦 佐起代

るかも知れませんが、「ここは本当に除菌されているのかな？」と利用者を不安にさせてしまう可能性がありますね。そこで除菌済を示すステッカーを作成しました。これをドアやテーブルに貼ると、除菌済であることをお知らせできます。

秦 それなら利用者が安心できます。一つ
のやさしさですね。

岡部 ステッカーはご希望があれば無料で配布していますので、ぜひご利用頂ければと思います。ドクタークリーンにはアルコールクロスもあります。こちらはそのまま拭いて頂けるので、もっと手軽に除菌ができますよ。

視覚障がい者の 「行きたい」を叶える

リンクス株式会社 代表取締役 鈴木貴達さん



「すべての視覚障がい者が外出できる社会をつくる」をスローガンに、同行援護サービスを提供するotomo（オトモ）。拠点である東京都足立区を中心に、東京23区から千葉県、埼玉県、神奈川県と広範囲にわたり対応する。otomoを立ち上げたのは、代表取締役である鈴木貴達さん。鈴木さんにとって、otomoは初めて携わった福祉業界だったそうだ。

フリーターから起業家へ

「高校を卒業してからは、しばらくフリーターだったんです」と切り出す鈴木さん。今の代表としてのイメージからは想像がつかず、驚かされる。その後、派遣バイト先の仲間に誘われ会社を作ることに。結果、20歳の時には独立のチャンスを得て、チラシやデザインなどといった広告関連の会社を起業されたそうだ。

otomoを始めるきっかけになったのは、起業家などが集まる交流会。とある事業所の方と名刺を交換し、その会社を調べてみたところ「視覚障がい者ガイドヘルパー」という文字が目にとまったという。実は、鈴木さんの母親には視覚障がいがあり、「視覚障がい者を家族に持つのに、外出をサポートするサービスや資格があることを初めて知ったんです」と当時の驚きを語る。



親孝行につながれば…

小さい頃から母親の目が悪いということとは分かっていたそうだが、自転車にも乗れ、あまり気にはならなかったそう。しかし、徐々に値札が見えなくなったり、初めての場所です迷ってしまうことも。「それでも家族からすれば、当たり前のことだったんです。工夫でなんとかやっていましたよ」というものの、気づけば、買い物に行くことが多数のお惣菜やおにぎりを購入するこが増えてきたという。なぜなら、「惣菜」「おにぎり」ということは分かってても、中身がわからないからだ。店員さんに聞くにも聞きづらい。

視覚障がい者ガイドヘルパーの資格を取得した鈴木さん。取得の際に知ったのは「業界が人手不足などで厳しい世界」ということ。また、母親の状態を見てotomoを立ち上げる決心に至ったという。初めての福祉業界ではあったが、起業の経験があった鈴木さんにとって、さほど抵抗はなかったという。「モチベーションの中心は母親ですね。母親が過ごしやすい環境になったら…というのが原点にあり、事業を通じて親孝行につながればと思います」。

otomoの 立ち上げを通じて



始めは利用者さんも数人程度で、軌道に乗るまでには時間がかかったという。「宣伝として、ネットやチラシ広告など様々な手段がありますけど、目が見えない方にとって、自分に必要な情報を拾うことってなかなか難しいんです。現在4年目に入り200人ほどの利用者さんがいらつしゃいますが、その多くは「口コミなんです」という。

立ち上げ当初は、ご自身でガイドも行っていたという鈴木さん。今までの職種とは大きく世界が変わった。「ある利用者さんのガイドをした時に、“7年ぶりにカフェに来ることができた”と喜んでくださって。この直接の“ありがとう”って本当に貴重ですよ。まだまだできることがあるはずなんです」。



もっと知ってもらいたい
スクールの設立

そのうち「資格はないが働きたい」という問い合わせが増えてきたという。当初は資格を取ってもらうために他所のスクールを紹介していたが、この資格や業界のことを広めたい、また、有資格者が多いほどこの業界に還元できるはずとの思いで、otomoスクールを立ち上げたそうだ。

「今、コロナの問題で外出を控える方が多くいらつしゃると思います。視覚障がい者の方も同じですが、それでも生活に必要な買い物や通院は避けられない。結果的にガイドさんの不足も起きているんですよ」と切実に語る鈴木さん。2020年12月には無料での開講を行った。



isee!“working Awards”2018
ビジネスプラン賞を受賞 鈴木さん（一番左）

otomoのこれから



3日間で資格が取得できます

otomo ご紹介

視覚障がい者の「行きたい」を
叶える同行援護サービス

otomo (オトモ)

<https://otomo.care/>



同行援護に特化して、利用者さまの要望に柔軟に対応。200名以上のガイドヘルパーが在籍し、一週間以内の急なご依頼にもできるだけ対応している。

同行援護従業者養成研修スクール

otomo スクール

<https://otomo.school/>



活躍するガイドさんが増えるよう、資格を取得しやすい日程・費用で受講することが可能。

●開講スケジュール

2021年 5月3日(月・祝)、4日(火・祝)、5日(水・祝)

2021年 5月28日(金)、29日(土)、30日(日)

2021年 6月22日(火)、23日(水)、24日(木)

●費用 一般の方 16,500円

家族に視覚障がいのある方 5,500円

otomoでは、各利用者さんが望む「こんなガイドさんに来てもらいたい」という情報を管理しており、マッチングにも力を入れている。また、できる限り直近の予定にも対応しようと努められている。「利用目的の多くは買い物や散歩ですが、皆さんの目的はそれぞれ。アイドルの握手会への同行依頼、なんているもありましたよ！きっと、今からラーメン屋さんに行きたい」ってこともあると思うんです。いずれはそんな希望にも対応していきたいです。生きることをより豊かにするためのサービスですから」と抱負を語る。

また鈴木さんは、この業界を広めようと各種セミナーなどの講演を行うほか、現在視覚障がい者の方が利用できるアプリ開発などにも力を入れられている。



ライター 藤川 悠子



おでかけをHAPPYに♡

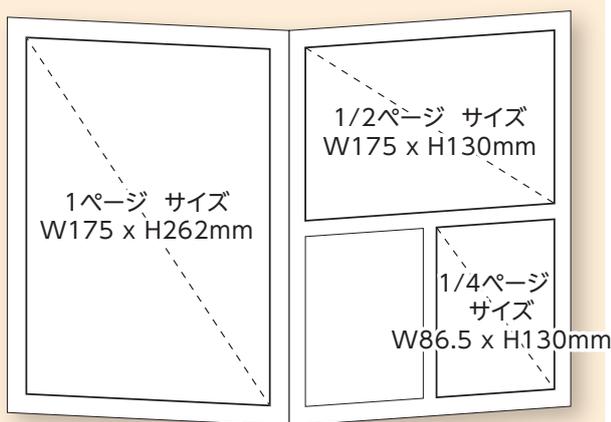


4月号 掲載情報 募集中!

介護施設等の
求人や事業所紹介も掲載できます。
お気軽にお問い合わせください。

広告 掲載費

- 1ページ 110,000円(税込)
- 1/2ページ 55,000円(税込)
- 1/4ページ 27,500円(税込)



A4版 冊子

- 同封チラシ(A4版) 110,000円(税込)

サンプルは、1/4ページ サイズ です。(原寸)

大田区 通所介護



サンプルです。

おかげさまで10年を向かえました!

ご利用者様が安心してご自身で出来ることにチャレンジして頂けるようなサービスを心掛けております。

介護パート・アルバイト急募 ~お好きな時間で勤務可

- 【募集職種】 訪問介護職員 | 土日休み | シフト自由
- 【雇用形態】 パート・アルバイト
- 【施設形態】 訪問サービス
- 【勤務時間】 09:00~18:00の間の1時間~OK
- 【給与】 生活援助1,250円 身体援助1,400円
- 【勤務地】 東京都大田区□□□□0-00-0
- 【応募方法】 電話連絡の上、履歴書持参ください。

デイサービスセンター

- ◆住所: 東京都大田区□□□□0-00-0
- ◆TEL: 00-0000-0000 ◆FAX: 00-0000-0000
- ◆定員: □名 ◆スタッフ数: □名
- ◆地域: 大田区



管理者: □□

特徴	入浴介助 加算	介護職員処遇 改善加算I	レクリ エーション	外出行事	季節 イベント
	車椅子 送迎OK	自費利用有	宿泊可	夕食提供	

申込書は、次のページにございます。

介護情報誌 出版部
FAX : 03-6369-3048

広告掲載（4月号）申込書

介護 Times、TOWN 介護 への広告掲載申し込みをいたします。

年 月 日

掲載サイズ	金額（税込）
<input type="checkbox"/> 1 ページ	<u>110,000</u> 円
<input type="checkbox"/> 1/2 ページ	<u>55,000</u> 円
<input type="checkbox"/> 1/4 ページ	<u>27,500</u> 円
<input type="checkbox"/> 同封チラシ(A4版)	<u>110,000</u> 円

※お申込みの掲載サイズにをお付けください。

*表2、表3、表4につきましては別途金額になります。

貴社名 _____ 印

ご担当者名 _____

ご連絡先 〒 _____

TEL _____ FAX _____

E-mail

- ・ご掲載のお申し込みは、本申込書にご捺印の上、FAX での送付を弊社確認後、または弊社営業にお渡し頂いた時点で成立とさせていただきます。
- ・広告掲載代金は、発行前にお支払い願います。

・ご不明な点がございましたら、介護情報誌事務局（03-5939-6682）

へお問い合わせください。

令和3年2月15日

2/15(月)より、本誌編集長の藤井が運営・管理・監修をする『介護の資格 最短net』で読むことができます。



介護業界で役立つ資格を
最短で取得したい方へ



介護の資格 最短net

<https://www.acpa-main.org/kaigotimes.html>

Members Introduction
メンバー紹介



発行人

高橋 寿光



発行人及び編集長

藤井 寿和



カメラマン

近藤 浩紀



インタビューアー

半田 あい



記者・営業

笠原 正寛



ライター

中澤 真弥



ライター

塩野 涼子



ライター

satomi



ライター

秦 佐起代



ライター

藤川 悠子



ライター

谷口 のりこ



アドバイザー

小林 弘和



事業責任者

戸田 昂志



総務責任者

岩崎 巧磨



デザイン・制作

(株)リードプランニング

発行所 株式会社 是眞
〒115-0041 東京都北区岩淵町 32-11
TEL.03-5939-6682

企画・編集 株式会社 是眞 合同会社 福祉クリエーションジャパン

発行予定 2月、4月、6月、8月、10月、12月

介護施設・広告掲載のお問い合わせは
株式会社 是眞

☎ 03-5939-6682 まで

■本誌記事・写真等の無断転載、使用を禁じます。

驚きのコストダウン

献立表・調理レシピ付き

介護事業所向けの 食材販売



1日
3食

490円

(税別)

朝130円
昼180円
晩180円
お米・調味料別

★+60円でおやつをつける事も可能です ★朝・夕2食可

安心の食材を、
美味しい献立で

新鮮な食材を献立に合わせて人数分配送いたします

栄養士がバランスを考えた美味しい献立を作成します

旬の食材を取り入れた(季節を感じるメニュー)提供

※ご要望があれば、米・調味料も配達いたします

〈例〉30名様利用の場合

1日3食 650円の場合

年間 7,117,500円

1日3食 490円の場合

年間 5,365,500円

ズバリ
年間
\コストダウン/
-1,752,000円

東洋商事株式会社は

今まで飲食店様(全国約6,000軒以上)食材を供給している会社です。
この度、そのノウハウを基に介護事業所向けの食材を販売することになりました!
各仕入れ業者様のご協力で、この価格での提供が可能となりました。

対応エリア

練馬区、板橋区、北区、豊島区、小平市近隣

TOYOSHOGI 食品総合商社 東洋商事株式会社(首都圏営業所)

〒179-0076 東京都練馬区土支田1-35-32 <http://www2.tsnet-web.jp>

お問合せ先 TEL.03-5905-1511

介護食担当
梅田

個人さま・法人さま

取材先募集。

目指す介護を

発信しませんか？

掲載
無料



介護を応援する情報誌〔カイゴタイムズ〕
本誌へ掲載する記事を大募集

取材・広告に関するお問い合わせはこちら

▶▶▶ 株式会社 是眞 〒115-0041 東京都北区岩淵町32-11 電話03-5939-6682

有料広告募集

伝えたい人に伝える広告

ターゲットに直接届く広告

印刷・掲載のコミコミ価格

広告サイズ多数対応(1/4~フルページ)

介護Times 広告主募集